

発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション中央病院
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL (078) 927-2727
FAX (078) 925-9203

さんぼみち



夢はオリンピック

院長 井口 哲弘

今年も篠山市で行われた全国車いすマラソン大会に医療スタッフとして参加しました。丹波名産の栗きんとんや黒枝豆が販売される秋の週末の土曜日、全国からぞくぞくと選手が集まってきました。例年医療スタッフは4名で、医師は以前当院で勤務され今は西脇市で開業されている南久雄先生と私、看護師は土曜日と日曜日で担当が違い、土曜担当は当院（今年は外来の岸師長と5西の藤井さん）で、日曜日は県立柏原病院からの2名です。

部門はフルとハーフマラソンごとに障害によって3段階に分かれています。そこで参加者全員の血圧を中心とするメディカルチェックが私たちの仕事です。実は皆さん結構血圧が高いのです。でも常連の人は1ヶ月前は北海道、さ来週は大分など全国を回っておられ、それなりに問題ないようです。しかし一人高齢の方でスタート直前に気分が悪くなって、血圧も高く説得して中止してもらいました。



スタートが近づくと我々もわくわくしてきます。フルマラソンの車いすは写真のように特殊な形をしていますが、一般の車椅子参加もあります。今年も自立生活訓練センターの参加者が数名元気に走られました。その応援も楽しみです。



今年のフルマラソンの優勝者は神奈川の人でした。最近では兵庫県から優勝者が出ていません。なかなか練習場所を見つけるのが大変だそうです。当院には多くの脊髄損傷の方が治療に来られます。その中から障がい克服して、将来のオリンピック選手になる人を見てみたいものです。病院やセンター全体で障がい者のスポーツ大会や日常スポーツへの参加を支援する活動をさらに推進する必要があります。

新任医師紹介

10月から麻酔科に着任いたしました。

当院は、年間全身麻酔だけでも300例を超える手術数がありながら、このところ常勤麻酔科医が不在となっております。

私一人で微力ではありますが、各科の先生方、各部所の皆様方に助けをいただきながら、患者様により安全に手術を受けていただけるような環境の整備に努めてまいりたいと思います。

どうぞ宜しくお願いいたします。

麻酔科医長 石田 真理

10月から勤務させていただいている整形外科の島です。

股関節グループに属しているので、股関節を中心に頑張りたいと思います。

どうぞ宜しくお願いします。

整形外科医長 島 直子

お知らせ

平成20年10月14日から、下記の「外来診療担当医表」のとおり変更しますので、ご注意ください。

平成20年10月14日から

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|--------------|------------------|-----------------------|--------|--------|----------|
| 内科 | 楠 仁美 | 高田 俊之 | | 阿佐美 雅子 | |
| | 中村 知子 | | 早川 みち子 | 楠 仁美 | 高田 俊之 |
| | | 加藤 順一 | | 中村 知子 | 早川 みち子 |
| 神経内科 | | | | | PM 奥田 志保 |
| | 上野 正夫 | 上野 正夫 | 友田 洋二 | 井上 貴美子 | 友田 洋二 |
| 循環器科 (特診) | 谷崎 俊郎 | 金澤 成雄 | 谷崎 俊郎 | | 金澤 成雄 |
| | | (血管外来) | | | (血管外来) |
| リウマチ科 | | | 中村 知子 | | 北川 篤 |
| 整形外科 (特診) | 島 直子 | 瀧川 悟史 | 島 直子 | 司馬 良一 | 瀧川 悟史 |
| | 幸野 秀志 | 津村 暢宏 | 井口 哲弘 | 陳 隆明 | 津村 暢宏 |
| | 陳 隆明 | | | | 石田 一成 |
| | 井口 哲弘 | 北川 篤 | 尾崎 琢磨 | 幸野 秀志 | 尾崎 琢磨 |
| | 福田 康治 | 石田 一成 | | 福田 康治 | |
| | (脊髄疾患) (四肢切断) | (スポーツ疾患) | (脊髄疾患) | (四肢切断) | |
| 泌尿器科 | 診察 | 仙石 淳 | 仙石 淳 | 手術日 | 検査日 |
| | 検査・処置 | 乃美 昌司 | 乃美 昌司 | 午後検査 | 乃美 昌司 |
| リハビリテーション科 | 正木 康友 | | 正木 康友 | | AM 中野 恭一 |
| 小児睡眠障害 | | 三池 輝久 | | 三池 輝久 | |
| | | (初診) | | (再診) | |
| 小児整形 | 司馬 良一 | ^{1・3} 金澤 慎一郎 | 浜村 清香 | | 司馬 良一 |
| | | ^{2・4} 浜村 清香 | | | |

泌尿器科診察室が拡張されました

泌尿器科部長 仙石 淳

このたび、リハビリテーション中央病院の泌尿器科外来診察室が拡張されました。お隣の歯科が元麻酔科（ペインクリニック）の場所に移転し、その場所を改装して元々の泌尿器科診察室とつなげたわけです。処置や検査が多い泌尿器科にとって従来の診察室1つと処置検査スペース2つだけでは手狭となり、外来の拡張構想は藤田久夫先生が院長をされていた時に持ち上がりました。その後、藤田先生や看護部からも精力的に後押しして頂いたものの、配管の多い歯科施設の移転には費用がかかることなどからなかなか実現しませんでした。とうとう今年の8月に完成をみました。歯科の施設（レントゲン室も含めて）は完全に撤去され、ひとつの広い部屋に改装され、これをカーテンやパーティションにて第2診察室と第3の処置・検査スペースに分けました。当然、処置室には天井にリフターが備えられ、従来の膀胱鏡検査台も含めるとリフター付き処置台を3台保有することになりました。処置の患者さんが多い日など、移動・移乗に時間がかかる当院では大変有効です。また、新しい処置台には他の県立病院から無償で頂いたエコー（元々の当科のエコーよりも新しく、高性能）をつけました。せっかく広いスペースを頂きましたので、仕切りをはずせばひとつの広い部屋としてまとまった人数での実習・見学にも使えるよう、余計なものは出来るだけ置かず、いつでも変更可能で余裕のスペースを確保することに配慮しています。来年からは現在予約検査日のために一般外来診察枠がない木曜日にこの第2診察室を使って外来を始めたいと思っています。以前、ある脊損患者さんから“なぜこの泌尿器科は月火金しか外来がないのか？また、偏った曜日なのか？”と云われたことがあります。月曜日の代休がおあい現在、休み明けに受診できるようにするには仕方のないスケジュールだったのですが、多々ご不便をおかけしていたと思います。こうすれば、水曜手術・検査日以外の月火木金にバランスよく一般外来をたてることができます。担当医は神戸大学に以前当科で働いていた経験豊富なパート医師を依頼するつもりですので、どうぞご期待ください。



患者・家族向け教室のご案内

《生活習慣病を学ぼう会の開催》

“糖尿病を中心とした生活習慣病”について学んでみませんか。

■場 所：第1・2・4回 ⇒ 研究所2F セミナー室 第3回 ⇒ 研究所1F 研修室

■時 間：午後2時～3時30分

第1回 平成20年12月10日

－導入編－ 糖尿病はどんな病気？治療はなぜ必要？

食事療法の基礎知識

講師：内科医師・栄養士

第2回 平成20年12月16日

－合併症－ 動脈硬化と足病変を中心に足の健康管理（フットケア）

講師：内科医師・看護部

第3回 平成21年 1月14日

－治療編－ 食事療法と正しい薬の飲み方

講師：栄養課・薬剤部

第4回 平成21年 1月27日

－治療編－ 運動療法

－応用編－ こんなときどうする？

講師：内科医師・リハ療法部

生活習慣病研究会

医療安全推進室から

■医療安全チームの活動紹介■

毎週水曜日の午後、医療安全推進室を中心に医療職がチームを組んで、患者さまの安全が守られるよう院内をラウンドしています。

①病棟トイレ入り口に段差があり、車いすの患者さまが苦勞され困られていたので、段差を解消するように総務課と調整し改善しました。

②3階外周ベランダに鳩が集まり、糞で汚染されていたので、鳩避けのネットを張ってもらいました。

③外来の待合室の椅子が老朽化により溶接が弱くなりはずれてしまいました。患者さまに直接被害はなかったのですが、すべての椅子の安全点検と補強を実施しました。



このように定期的にラウンドしていますが、私達の気づかないところも、あると思います。チームは緑色の腕章を付けていますので、何かお気づき等がありましたら、気軽にご意見等お聞かせ下さい。

第3回 北京国際リハビリテーションシンポジウム （北京国際康復論壇）に参加して

整形外科部長兼 リハビリテーション科部長 陳 隆 明

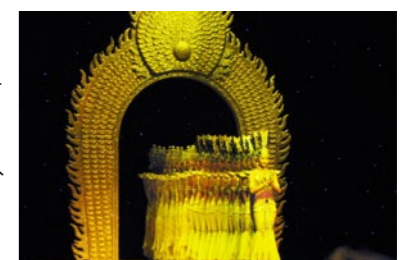
私は平成20年10月27日から11月1日までの間、北京国際康復論壇に参加した。この学会は中国康復研究中心（中国で最新の、最大規模を誇るリハビリテーションセンター）の開設20周年を記念して行われた。10年前にも私は開設10周年の記念式典に招待され講演を行った。縁というものをを感じる。そして私は今回も演者として要請されて参加した。2つの講演を、ひとつは英語で、もう一つは中国語で行った。当然ではあるが、中国語で行った講演は地元の中国の人たちには好評であった。



【写真1】

には入れないそうだ。また、会期中の企画として、中国の障害者で構成する芸術団の歌や踊りを見ることができた。その中には日本でも有名になった「千手観音」の演技もあり、間近に見られて感動した。【写真2】はその時撮影したものである。実に幻想的であった。会期中には、何とか時間を設けて中国康復研究中心のリハビリ施設や義肢装具製作所を訪れた。私の印象では、中国康復研究中心のリハビリレベルは日本と比べて遜色ないように感じられた。ともあれ、有意義な時間を過ごすことができた5日であった。

記念して行われた。10年前にも私は開設10周年の記念式典に招待され講演を行った。縁というものをを感じる。そして私は今回も演者として要請されて参加した。2つの講演を、ひとつは英語で、もう一つは中国語で行った。当然ではあるが、中国語で行った講演は地元の中国の人たちには好評であった。そして、大変名誉なことに、私が行った講演に対して「最優秀論文賞」を授与された。記念式典は釣魚台国賓館という中国の迎賓館で行われ、その中に入ることができた。【写真1】はその時に撮ったものである。普段は、政府要人以外は滅多



【写真2】